

平成 30 年 4 月

魚津市定例記者会見



日時：平成 30 年 4 月 2 日（火） 午後 1 時 30 分～

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞社、朝日新聞社
NHK、KNB、BBT、チューリップテレビ、NICE TV、
ラジオミュー

市当局出席者：市長、副市長、教育長、企画総務部長、民生部長、産業建設部長
企画政策課長、埋没林博物館館長

1. 市長からの発表事項

(1) 平成 31 年 4 月開校 魚津市立星の杜小学校 校章デザイン募集

- ・募集期間は 4/2 から 5/18 まで
- ・全国的にも珍しい木造 3 階建ての校舎に「杜」をイメージし、そこに子どもたちが夢を持ち、きらきらと輝きながら元気に活動していくことをイメージとして持っている。是非、多くの応募をお願いしたいと思う。
(説明内容は別添プレスリリースのとおり)

(2) 公立保育園における土曜拠点保育を開始します

- ・これまで公立保育園 8 保育園で実施していた土曜保育を、平成 30 年度から道下保育園（拠点園）1 園に集約して実施する。保育体制の充実を図る。
(説明内容は別添プレスリリースのとおり)

(3) 魚津埋没林博物館がリニューアルオープンします

- ・ 4/14（土）に魚津埋没林博物館がリニューアルオープン。
- ・博物館カフェ「KININAL」も同日オープン。
(説明内容は別添プレスリリースのとおり)

(4) 魚津市安全安心まちづくり基金の創設

- ・防犯カメラの設置等、防犯事業の推進を図る安定的な財源を確保するために基金を設置した。
(説明内容は別添プレスリリースのとおり)

2. 教育委員会及び各部長からの説明事項

〈教育長〉

- ・ 歴史民俗博物館開館(11 月末まで)
- ・ よつば小学校開校式
(4/5 開校式 4/1 現在で児童 625 名)
- ・ 小中学校 1 学期始業式
- ・ 魚津市立小中学校入学式
- ・ 第 38 回魚津しんきろうマラソン
(参加者 6,681 名 前は 7,534 名 昨年よりも 1 カ月申込締切日を早めた)
- ・ 第 8 回富山国際現代美術展「2018ART/X/TOYAMA」
(5/3 の講演会はチラシには要整理券とあるが整理券は不要)

〈企画総務部長〉

- ・ 第 1 回水の学び舎ツアー「あなたの知らない魚津の謎」
(次回ツアーからは、環境安全課が担当する)

〈民生部長〉

- ・ 魚津セーフティ&クリーン作戦
- ・ 市内公私立保育園(西布施を除く)、認定こども園入園式
(西布施保育園は、今春入園する園児がいなかった)
- ・ 春の交通安全運動出発式
(交通安全運動期間 4/6~4/15)
- ・ 若年性認知症ドキュメンタリー映画「八重子のハミング」
(4/18 新川文化ホール小ホール NPO 法人つむぎが開催。魚津市後援)

〈産業建設部長〉

- ・ 第 13 回桜のページェント
(4/7~4/8 開催 4/7 はアンビグラム作品・銘版の除幕式も行う)
- ・ 緑化用苗木の無償配布
(ツツジ 200 本、花苗 200 個 配布予定)
- ・ 片貝山ノ守キャンプ場 営業開始
(4/20 予定だが、積雪状況等により変更の可能性あり)
- ・ 常設型お化け屋敷「恐怖の館」オープン
(4/28 オープン。施設は旧管理棟を有効活用)

3. 質疑応答の内容

「公文書改ざん問題について」

《記者からの質問》

公文書改ざん問題について市長の見解を聞かせてほしい。

《回答》（市長）

公文書改ざん問題については、行政の信頼を失わせる行為であり、絶対にあってはならないと思っている。行政意思を決定していく際には、内部で何度も検討をしていく。一旦決まって公になった公文書について、そのあとに意思決定過程に、誤解をあたえるような訂正は絶対あってはならないと考えている。市としても、そのようなことが決してないように、公文書管理を徹底していきたいと考えている。

「低所得世帯の第1子、第2子の保育料を無償化について」

《記者からの質問》

県が打ち出した、10月からの低所得世帯の第1子、第2子の保育料を無償化する事業について、市町村にとっては急な話であり、また、魚津市もお金をださなければならないことになると思うが、どのようにしていくか考えを聞かせてほしい。

《回答》（市長）

県の保育料の無償化問題については、現場を預かる市町村としては、9月の保育料の決定に続いて、10月にもう一度やり直さなければならないという点についての混乱が一番の懸念材料であった。保育料を軽減していくという大きな方向性自体はいいと思うが、事務負担の問題が一番ネックである。これについて、県内の市町村の皆さんと、事業の内容はいいがしっかり事務的な調整を行うようにすべきとの話になり、市町村で県にあのような申入れをした。魚津市としては、仮に9月という段階で、県に答えをいただけるのであれば、そのタイミングにあわせて、市としても対応を考えていくことになると思っている。

「定住応援室について」

《記者からの質問》

新年度から定住応援室が稼働したが、改めて、定住応援室の設置の目的、今後の展望についての考えを聞かせてほしい。

《回答》（市長）

移住・定住の取組については、魚津市は必ずしも他の団体に先駆けていたわけではないという認識がある。これまでも、個別の話や動きがあれば、その情報を担当課でキャッチをして、実際の移住定住に繋がらないかということを行ってきた。しかしながら、移住・定住を求めるサイドからしてみると、一番目は、仕事・就労問題、二つ目は住宅の問題がある。もし、お子さんがいれば、保育園や学校など、生活面に関わるいろんなニーズがある。これら移住者のニーズを一元的に捉えて、最初の段階で、魚津市が本気であり、いろいろな問題に総合的に相談に乗っていくこ

とを示していきたいという思いがあり、移住・定住について、しっかり一元的に受け付ける総合的な組織を用意しようと思った。

今日の午前中の訓示でも話したが、外から人を誰でも呼び込めばいいというものではない。それぞれの地域特性があるので、しっかり移住者が地域のコミュニティの文化を理解して、そこに溶け込むという関係作りを行っていくことが一番重要なことだと思っている。そうすると移住者の支援だけでなく、受け入れる側の地域の環境づくりについても、意識付けを含めてしっかり取り組んでいくことが不可欠になる。そういう意味で、地域協働課というこれまでも地域と密接に関わっているセクションに定住応援室を設置し、両面から取り組んでいこうと考えた。ネーミングも最初、「移住・定住応援室」とつけようと思ったが、そこに住んでいる人もきちんと住み続けるといった思いもあり、「定住応援室」というネーミングにした。

今、一部地域では、本当にやる気になっている。まずは、本当の定住でなくても地域に興味をもってもらい、いいところだねという形で、しばらく滞在したりするような動きから実現すれば、やがては、そこに家を構えるという流れに繋がっていただければと思っている。まずは具体的なアクションをひとつ出していくということを、市としても地域と一緒に応援していきたいと思っている。

「常設型おばけ屋敷『恐怖の館』について」

《記者からの質問》

常設型おばけ屋敷『恐怖の館』について、既存の建物を有効活用して使うということは、財政が厳しい時代において面白い取組だと思った。このようなアイデアが出てきてやろうと思い、走り出すということについての、市長の所見を聞かせてほしい。

《回答》（市長）

プランニングに関わっていたわけではないが、この話を聞いたときは、手作りの感覚でミラージュランドに新しい魅力を作ろうという職員の皆さんの心意気を素晴らしいと思った。いつもではないが職員がおばけの役をやることも考えているとのこと。すごい仕掛けや立派なものでもなくてもいいが、来場者に楽しみながら怖がってもらえるということが、この時代、来場者のハートに伝わっていくのではないかと思う。こういった取組に期待していきたいと思っている。

「埋没林博物館のリニューアルオープンについて」

《記者からの質問》

埋没林博物館のリニューアルオープンについて、マスコミ用の内見会はあるのか。

《回答》（埋没林博物館館長）

既に報道の方にはご招待状を郵送してあるが、4月9日（月）の9時から11時の都合のいい時間に来ていただければご案内させていただきます。

《記者からの質問》

カフェ「KININAL」は、そのときには営業しているのか。

《回答》（埋没林博物館館長）

その日はまだ営業していない。

「魚津市安全安心なまちづくり基金について」

《記者からの質問》

魚津市安全安心なまちづくり基金については、一口いくらとかはあるのか。

《回答》（市長）

寄附についてそのようなことは決まっていない。寄附者の思いでいただくわけで、金額はいくらでも構わない

《記者からの質問》

寄附したいときは、環境安全課に連絡すればいいのか。

《回答》（市長）

そのとおりである。全部寄附で賄おうとすると相当な金額になってしまうので、何年間かけてということになる。我々も企業をはじめ個人の皆さんに小額でも結構ですので、子どもたちの安全確保にご協力をということで働きかけを続けていきたいと思う。